



平成24年4月17日

## 全国共同研究拠点 資源植物科学研究所と 東日本大震災復興支援プロジェクト

＜概要＞岡山大学資源植物科学研究所は、“植物遺伝資源・ストレス科学”の共同利用・共同研究拠点到認定され3年目を迎えました。その間、植物科学最先端研究拠点ネットワークの一つとしても選ばれるなど、共同拠点としての体制を整えてきました。現在、東日本大震災で塩害や放射能汚染を被った農地の修復に向けた試みにも取り組んでいます。

- ・岡山大学資源植物科学研究所が“植物遺伝資源・ストレス科学”の共同利用・共同研究拠点として文部科学省に認定され、本年度（平成24年度）で3年目を迎えます。
- ・国立大学附置研究所の中で**唯一農学に係わる研究所**であり、本研究所が保有する**大麦と野生植物の遺伝資源を活用**するとともに、作物の生育を阻害する様々な**環境ストレスに対する応答機構や耐性作物の育成**に関して世界的な研究成果を挙げています。
- ・共同研究拠点として、全国の大学・公的研究機関に課題公募を行い、平成22年度は31課題、23年度は40課題、そして本年度は56課題を採択し、多くの研究者や学生が来所し共同研究を行っています。
- ・平成22年度には、全国の世界的な研究拠点9つを結ぶ**植物科学最先端研究拠点ネットワークの一つ**としても選ばれ、多くの先端研究機器が導入され、これを用いた研究サポートサービスも開始しました。
- ・東日本大震災では農地も甚大な被害を受けました。本研究所では、**塩害と放射能汚染農地を植物遺伝資源を用いて修復する試み**を初めています。
- ・塩害農地の修復には、**塩害および湿害に強い大麦**を育種し導入すること、放射性セシウム汚染農地では、福島県飯舘村の農地に生育する**野生植物（いわゆる雑草）の放射性セシウム吸収能力**を調査し、雑草を活用した除染を行うことを、それぞれ計画しています。本プロジェクトは、岡山大学のサポートのもと、**岡山大学自然生命科学研究所センターとの共同研究**で行っています。
- ・大正3年（1914年）に大原孫三郎氏によって設立された本研究所は、2年後（2014年）に100周年を迎えます。農業の研究所として、人類に最も重要な食糧問題に全力で取り組んで参ります。

### ＜お問い合わせ＞

岡山大学 （所属）資源植物科学研究所  
（氏名）山本洋子  
（電話番号）086-434-1233  
（FAX番号）086-434-1249